

研修だより

矢島小学校

10

04.11.5

学力向上のためのIT活用

「IT活用」そして「学校の情報化」は、日本の国策です。

「e-Japan戦略」(2001.1)に示されたブロードバンド(高速回線)の普及目標はすでに達成され、IT戦略の第1期目標である「IT基盤整備」は順調に進んでいます。

その2年半後に出された「e-Japan戦略」(2003.7)においては、第2期目標として「IT利活用」が示されました。

現在は、IT基盤を活かして社会・経済システムを積極的に変革するという時期に来ています。こういった国家戦略の中で、「教育分野は特に重要な役割を担う」ことは言うまでもありません。

学校教育の中でのIT活用は、「しても、しなくても、いいもの」ではなく、「しなければ、いけないもの」と捉える必要があります。

環境整備の財源が「地方交付税」とされているため、一部で誤解を生んでいるようです。

このため、地方公共団体によって格差が生じていますが、予算要望も実践もしない地域や学校には、今後も予算がつくことはないそうです。(文科省 X 氏の講演での話)

少なくとも、学校の情報化に関しては、誰かがお膳立てをして「さあやりなさい」とはならないということだけは、肝に銘じておいてください。

教育行政もかなりのスピードで変化しているのです。これからは、「みずから求め、実行する」ことが求められます。(そう言えば我々は、子どもに対してはこれを求めていますね...)

本題に戻ります。

文部科学省は、「ITで築く確かな学力～その実現と定着のための視点と方策～」(2002.8)で、

このような教員にとっては、子どもたちの力を伸ばす上で、ITの活用が、今までの様々な工夫以上の効果を発揮するものであることを明確に認識することが重要である。

として、

ITは、各教科の授業における指導の充実のために用いられるものであり、今回の学習指導要領の主旨を踏まえ、「確かな学力」の向上のために効果を発揮するものでなければならぬ。

と、IT活用は学力向上のための手段だということを明確に示しています。